ART BIOTOP

第4号

DEC 2008

アート・ビオトープ

アート・ビオトープ那須 〒325-0303 栃木県那須郡那須町高久乙道上2294-3 TEL0287(78)7833
アート・ビオトープ小豆島 〒761-4115 香川県小豆郡土庄町字戸形甲3417旧戸形小学校内 TEL03(6826)3550 準備事務局

www.artbiotop.jp

21世紀の観光業
NEW Tourism

観光立国日本とアピールしてはいるものの、身近なところでその変化を感じることは少ない。「見る旅」「感じる旅」「知る旅」「味わう旅」「身につく旅」「ふれあう旅」「自己成長の旅」と、旅も多様化してきている。では社会の成熟化した21世紀における知性・美性・感性の時代の観光業の目指すものはどのようなものであろうか。

〝来るべきアートの苗床〟という構想で作られた芸術施設アート・ビオトープにおいて、新たな異文化交流の場の創造が進行している。国内外から美術作家などを公募し、滞在制作させ「地域住民との交流」「地域おこし」「作家同士の刺激の場」を目指すという。

これと同様な試みをしていたのが石川県七尾市の「七尾国際石彫シンポジウム」である。国内外から国際的に活躍する彫刻家を迎えて、石彫刻制作公開製作、石彫教室などが行われ、作品が街中に展示されたものであった。これは地域活性化、芸術文化意識の高揚のために、市民と行政が一体となった街づくりを目指し成功を収めたが、1995年から3年間のみ開催され、残念ながら現在は行われていない。

日常生活の中での芸術家との接触は、非日常空間を同時に体感することであり、好奇心を喚起させるという新たな魅力づくりになる。芸術の里（杜）全体をアート・ミュージアムとして捉え、市民も観光客も様々な作品を鑑賞し、触れることができるというような芸術を満喫できる街づくりにも展開できるだろう。そうすることで地域住民とのさりげない異文化交流も実現する。ある種の芸術家村なるものにも繋がることだろう。

ただそこにあるものを見るという「静」の観光から、変化を伴った「動」の観光が求められているのではないだろうか。新たな要素として知性・美性・感性を共有するという場の創造への期待と、その永続性を願いたい。

服部 勝人「はっとりかつひと」
東洋大学大学院教授、日本ホスピタリティ・マネジメント学会々長

1996年七尾国際石彫シンポジウム（石彫教室） 写真：前田真路

ようこそ日本へ
――目標は、外国観光客誘致二千万人。

10月1日、国土交通省の外局として「観光庁」が発足された。政府の03年「観光立国宣言」から急増し始めた「訪日外国人旅行者」は、昨年835万人とここ10年で約2倍になった。その70％を占めるのが、00年に団体旅行が解禁された中国、05年からビザが不要になった韓国、台湾などアジアからの旅行者である。政府は「観光を通じた地域振興」（麻生首相）という地域経済の活性化を図り、観光庁は「20年までに2000万人目標」を掲げている。

参考文献「朝日新聞（9／30刊）」より

ユートピアとしての南（二）
―リゾート文化の起源を求めて

［南へ逃げる人たち］

最近、畏敬するドイツ文学者、池内紀先生の編まれた岩波文庫版の『尾崎放哉句集』が出て、夜寝る前の読書用に楽しんでいる。何とも、曖昧で優柔不断、しかしこのうえなく興趣を誘う俳句群である。

周知のように、放哉は若狭の小浜の小さな寺にいたが、小豆島に越して来て、寺男?のかたわら作句に励み、その地で大正十五年、四十一歳で没した。東大出の、最初は保険会社の社員だったが、何が不満でか仕事も家族も捨て、流浪の芸術家人生を送った放哉だが、その流れめぐった土地を見てみれば、京城ソウル、小浜、小豆島、といった具合で、より暮らしやすく、気候温暖な南へ動いていったのが、わかる。

南とは、緩い、そして心地良い、母性的な包容力のことを指すのだろうか。あるいは、無時間的な、生と世界との一体感を求めて、人は南に赴くのか。昔は、編み笠托鉢姿が有名な、種田山頭火の方をよく読んだ。

「わけ入っても、わけ入っても、青い山」
「焼酎を、ごきんごきんと飲んでいる」
九州から、中国、四国と、まあ山頭火もどちらかというと、温暖な南志向の人間だろう。

生涯を旅に過ごした、苛烈な伊勢松坂の俳人芭蕉にあったような、「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」（『芭蕉俳句集』中村俊定校注、岩波文庫版）、近世人の果敢で壮絶な芸道確立の決意などは、二人の近代人には、無縁のようにも見える。それもまた、皮相な見方ではある。実際にやるやらないは別にして、仕事や家族、そうしたしがらみすべてを捨てて身ひとつになるのが、現代でもある種、壮絶なことぐらいは想像できる。だが、二人の繊細で壊れそうな感受性が、彼らの体験した近代社会に、どうしようもなく耐えきれない、何とも上手く表現できない、言いようのない抑圧を感じとったことだけは明らかだろう。

［偏在する放哉］

放哉が、小豆島の実際どこで、どのように暮らし最期を遂げたのか私は知らないし、たぶん、これからも、それに惹かれることはないだろう。

「縁の下から猫が出て来た夜」、
「一丁の冷豆腐たべ残し」、
「咳をしても一人」、
「爪切ったゆびが十本ある」。

現代人が、放哉に、そして彼の無類の優しさに憧れる気持ちが、よくわかる。

というより、現代は、特殊な芸術家だけではなく、老若男女あらゆる人びとが、何処か別の場所へ、ここではない何処か他の場所へ、一目散に逃げたがっている時代であるような気が、私にはする。だが私は思うのだが、すべては考えよう、感じようである。世界は、見え方ではなく、見方の問題なのだ。あらゆる日常、幾多の見えない抑圧や、ストレスに溢れたありふれた日日の暮らしも、人生そのものが旅だと感じたその時、瞬間瞬間から、すべては見え方を変え、新しい未生で未見の、小さな、驚異的な世界として、再び甦ってくるのではないだろうか。

放哉を読む時にわかってくるのは、私には、そういうことなのである。

新見 隆「にいみりゅう」
武蔵野美術大学芸術文化学科教授
ギャラリー冊、アート・ビオトープ那須 顧問・キュレーター

〝五感の交わる、那須の夏、クリエイティヴのゼロ地点を求める三日間〟
「山のシューレ」が無事終了

サマー・オープン・カレッジ「山のシューレ」。今年は各界でご活躍の方々をお招きし、27講座を設置、開催されました。

ガラス、陶芸工房では、豪華講師陣による本格的なワークショップ。「摘み草を学ぶ」「みつ蜂の生態系に触れる」といった体験型講座、さらに数々の座学講座が開催され、どの講座も講師と受講生が、親密に交流できる充実した贅沢な環境は大好評でした。「地球、自然への敬愛」「たった一人の人間力の意義」が、共通するメッセージとしてあったと改めて感じています。

毎夜催された「夜の会」も、大変和やかな雰囲気で行われました。初日は「吉田加南子さんとワサブローさん」による詩とシャンソンのコラボレーション。「この場、この時」の奇跡を感じる、初日らしい一夜でした。

楽しく学び続けることこそ、人生の醍醐味！

2夜目は、原壮介さんによるギター・ソロ演奏。原さんの力強く優しい歌声とギターは、参加者を包み込むように魅了し、のりにのってアンコール。大変な盛り上がりようでした。

そして、最終日の嬉しいハプニングは、「能楽師・安田登さんとチェンバロ奏者・平かおりさん」の即興コラボレーション。安田さんの風格と絶妙なチェンバロは、タイミング、迫力とも圧巻でした。

井上ひさしさんの「〝文化〟とは、日常や日々の生活ひとつ一つを束ねたものであり、棚のうえのものではない。」―という言葉を胸に那須横沢は、〝新しい芸術家コロニー〟として学びの文化が根付くよう、未来へ向けてまた一歩踏み出します。来年の「山のシューレ2009」は、7月30日～8月3日の5日間（予定）。ご期待ください。

心温まるアウトサイダー・アート

「アートフェスタ那須2008」特別企画展として、8月29日から11月16日まで「にき倶楽部1986」二期ホールを中心にオランダ・アウトサイダー・アート展が開催されました。本展にはオランダ・ロッテルダムのアトリエ、Herenplaats とライデン市の Gallery Olof から大小80点余りの魅力的な作品が出品されました。正規の美術教育を受けていない人々が制作した作品は、既成の枠にとらわれない大胆さや力強さに満ち溢れ、人間の持つ表現するということへの根源的な衝動、その生き生きとした息吹を感じさせました。

マーケットも大賑わい！

山のシューレ期間中、アート・ビオトープ那須において〝市場〟が開催されました。山野草、版画、テラコッタ人物像、古道具、アンティーク、ワイン、シャンパン、ビールと多種多彩な出店に、アトリエ・ワン制作による〝マーケット・ワゴン〟も華を添え、「山のシューレ講師」の書籍、キッチンガーデンの野菜、心温まる「册カフェ」セレクト商品なども販売されました。「山のシューレ参加者」も足を留め、買い物や店主とのコミュニケーションに賑わう3日間でした。

マーケットに個性を！

建築だけでなくアート展でも活躍中のアトリエ・ワンがデザインした可動式ワゴンが、那須のマーケットでデヴュー。世界の市場を研究している彼らの、オブジェとしても美しいワゴンです。さらに来春には、小豆島にもお目見えします。

アート・ビオトープ小豆島で働きませんか

マーケット出店者募集
- 地産のお惣菜（現場調理歓迎）
- 海鮮（干物、加工品）
- 食品（加工品）
- 青果
- 生花
- 植栽　その他

スタッフ募集
- ショップスタッフ
  経験者歓迎
- アート・ビオトープスタッフ
  ・工房、ARの施設運営、企画、広報、制作
  学芸員資格者歓迎

問い合わせ先
03―6826―3550
アート・ビオトープ小豆島
東京準備事務局

サザンカ（山茶花）

“サザンカ、サザンカ、咲いた道…”と歌われる此の花には、鄙びた華やかさと懐かしい温かさがあります。彩りが少なくなった初冬、早朝のサザンカは霜をまとって咲いています。暖かい春の雨が椿の花を落とします。“霜のあしたのサザンカ、雨の夕べのツバキ”と言われる所以です。

サザンカは四国の南西部と山口県の端をかすめて九州・沖縄に野生があります。野生のものはツバキと違って白い花です。山のサザンカはツバキと同じく油料でした。花木になるのは江戸時代です。百を超える品種があったことが良く調べられています。大輪で華やかな江戸サザンカやシンプルで品格のある肥後サザンカなど、地方色豊かな品種も今日迄伝えられています。ツバキには秋咲きの品種が幾つもありますが、サザンカの品種は冬咲きという性質を守っています。謎の多かった春サザンカと寒ツバキ（獅子頭）も、結局、雑種起源であるというのが今の結論です。

サザンカの種子を播いても同じものはほぼ出てきません。種から育てたマイサザンカの佳品が全国各地の民家に代々残されています。かって、学者が小豆島を調査して、福田の民家にあったサザンカの大木とその花を激賞して帰った事があります。此のような無名のサザンカを発見する旅も、又楽しい。

八代田 素樹［やしろだもとき］
小豆島・渕崎在住

ご協力

株式会社 二期リゾート
前田電設 株式会社
株式会社 マック
松山油脂 株式会社
株式会社 三喜
株式会社 みつわランドリー
アカデミーデュヴァン
株式会社 一休
こまつ座
株式会社 コンパスポイント
山水閣
サンバレー那須高原
森羅塾
スクーリング・パット
二期倶楽部
藤原養蜂所
ホテルエピナール那須
マミフラワーデザインスクール
Muse Company
りんどう湖ロイヤルホテル

市場出店いただきまして
ありがとうございました。
「古道具　おお屋」「小林酒店」「コンパス・ポイント」「册カフェ」「山野草愛好会」「ジン・クレイアート社」「那須高原ビール」「NASU WINE」「木口木版画作家　見目陽一」「森のフォーク」

「那須コラム」第1回

誇れるロイヤルリゾートであるために…

ロイヤルは那須御用邸があることに
由来しています。
されど本来の意味には「この上ない、すばらしさ」
という形容が根底にあります。
那須に集う人々の「知性」「感性」、
散りばめられた「情熱」、
穏やかさに満ちた「時間」の流れる森に
今日も強い風が吹き抜けていきます。
那須岳の裾野にすーっと拡がる、
この「品がつつむ空気」とともに
高い空へ心がはなたれる瞬間
「この上ない、すばらしさ」を
多くの方々に訪れ感じていただけたら幸せです。

二期倶楽部東館レセプション・**原田 祐輔**
（那須検定３級認定者）

2008 クリスマスコンサート

観季館　二期倶楽部

12月24日、二期倶楽部庭内の観季館で初めてのクリスマスコンサートが開催されます。岩崎淑（ピアノ）、北本秀樹（チェロ）、漆原啓子（ヴァイオリン）、大石啓（ピアノ）、四人のクラシック奏者が、グリーグの四手連弾による「ペール・ギュント組曲　第一番」、メンデルスゾーン「ピアノ三重奏曲　第一番」、ラフマニノフ「ヴォカリーズ」などの名曲の数々を演奏します。冬の澄み切った那須の空気のなかで迎える大人のクリスマスの夕べに、ヨーロッパのサロンコンサートを想わせる華やかなひとときをお楽しみ下さい。（詳細は、イベント・インフォメーションに掲載）

岩崎淑（ピアノ）

北本秀樹（チェロ）

漆原啓子（ヴァイオリン）

大石啓（ピアノ）

WORK SHOP ワークショップレポート

ガラス、陶芸同時開催!

オープンから一年半を迎えたアート・ビオトープ那須は、初の試みとして「ガラス・陶芸両スタジオ」同時にワークショップを行った。ガラススタジオでは高橋禎彦氏を招き、吹きガラスのための設備である「熔解炉や除冷炉」の組み立て、それを稼動させて制作するという四日間。陶芸スタジオでは、中村錦平氏、中村洋子氏、樋口健彦氏が、三日間にわたりレクチャーをするという、今までにない豪華な内容だった。

熔解炉づくりに真剣に取り組む

手づくりで炉を作ることは、作家にとっては貴重な技術である。「専門業者の作る炉」は大規模で高額で、個人がガラス炉を持つのは困難だからである。貴重な「手づくり炉」の制作と、日本を代表する高橋氏の公開制作に魅力を感じ、多くの受講生が参加した。

初日、二日目は、炉の組み立てについて解説。どのようにしたらガラスが溶けるのか温度と熔解炉の説明、その後、目前の熔解炉やグローリー（再加熱炉）の構造を学んでいった。今回、乾燥の関係で事前に行われた熔解炉のレンガ積み作業は、スクリーン映像を見ながらの解説となった。

途中まで制作されていたグローリーの仕上げ作業で、扉の取り付け、ガス、空気の配管など、受講者がスタッフと一緒に汗を流した。そして、その試運転では、大きな拍手が巻き起こった。さらに、高橋氏による、瓶を再利用してボウルに作り変える公開制作は圧巻。

三、四日目には、「手づくり熔解炉」で溶けているガラスを用い、高橋氏の貴重な制作風景が公開された。受講者はジッと制作の様を見つめ、スタジオはさらなる熱気に溢れた。講師と受講者、スタッフたちが熱く過ごした四日間、ガラス工房に新たな息吹が吹き込まれた。

豪勢個性派の三講師に、体当たりで土の造形

陶芸ワークショップでの、三人の講師による初の試みは、かつてない盛り上がりを見せた。スライドレクチャーで、講師はそれぞれ、自作や考えの移り変わり、造形観を語った。そこで見た作品や考えは、常識を超えた驚くものばかり。その刺激を受けた受講者たちも、未知の造形を生み出さんと土の塊に挑んだ。先ずは土の板に、ちぎったり曲げたりした土片を思い思いに乗せる。錦平氏と樋口氏による「土の表情を探っていく演習」。アドバイスを受けながらオブジェや器へと発展させていった。また、洋子氏による「ステンレスメッシュと土の造形」では、自在に曲げたメッシュに、ハンドバーナーで焦げ模様を付ける大胆な手法を実演。土とメッシュに真剣に取り組んだ受講者たちは、自由な造形を手にした笑顔の三日間となった。

2008アート・フェスタ那須に、ご後援・協賛・協力いただきましてありがとうございました。（敬称略・五十音順）

ご後援

NPO法人　アート・ビオトープ
株式会社　下野新聞社
ジャパンタイムズ
栃木県教育委員会
株式会社　とちぎテレビ
株式会社　栃木放送
那須町教育委員会
社会福祉法人　那須町社会福祉協議会
葉山文化園
連志連衆會

ご協賛

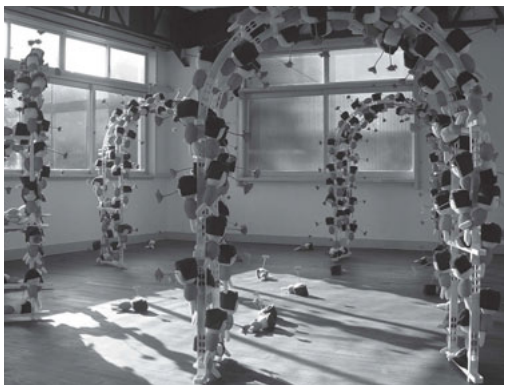
植木酒店
株式会社　栄光
株式会社　エルコア
ココ・ファーム・ワイナリー
さいとう
田代建設　株式会社
田辺建設　株式会社
千葉防災設備　株式会社
東京電力　株式会社　栃木北支部
那須植物園

アーティスト・イン・レジデンス考 後編

小さなアートの複合施設から大きな可能性を！

アーティスト・イン・レジデンスの実践

東京にある世界一小さなアーティスト・イン・レジデンス（以下AIR）、東京23区の西端、杉並区善福寺にある遊工房アートスペースは、海外のアーティストの滞在型創作スペースとして本格展開を始めて今年で8年目を迎えた。世界中のAIR実践家のネットワークである「Res Artis」の数多いメンバーの中で、遊工房は、私設の小規模な、大変ユニークなAIRとして、世界のメトロポリス東京を背景に滞在希望のアーティストが途切れることがない。滞在期間は最大6ヶ月、同時には2−3組のアーティストの滞在が可能で、1ヶ月以下の短期の方も含め、これまでに20カ国100人を超える様々なジャンルのアーティストを迎えてきた。国際都市というにはまだまだ遠い東京の現実、国内アーティストや地域の人々との交流や、生きた異文化理解など、日本におけるアートの活動が、アーティスト自身の自立意識のもとに、もっと個人や民間の自主性がベースになった展開が重要なのではないかと感じている。



遊工房アートスペースは、ギャラリー、創作スタジオ及び滞在施設を備えたアートの複合施設から構成され、特にAIRプログラムは、国内外のアーティストが、東京という魅力的な都市に、滞在しながら活躍を広げる「機会」をつくると共に、多様な分野のアートを地域の人々が身近に触れる「場」となっている。このスペースは、70年代までは診療所兼結核療養所だったが、80年代からは、さまざまな芸術活動の場となった。

遊工房アートコミュニティは、遊工房アートスペースを中心に展開するアートを通したコミュニティ活動である。東京・杉並に位置する複合施設、遊工房アートスペースの創作スタジオ、滞在施設及び、交流スペースから、多彩なアート活動や交流が展開され、それらは発展し、あるいは変化し、醸成している。活動の成果は、ギャラリーでの発表や・国内外のアーティスト間の交流のみならず、地域内外に広がるアートを通した諸活動に連係している。（詳しくは遊工房アートスペースWebサイトをご参照願う。）

滞在型芸術創作活動（AIR）

遊工房アートスペースは、国内外のアーティストのための、滞在を通した新たな創作活動の機会と場を提供している。作家自身の意思による滞在計画を尊重し、一人一人の多様なニーズに応えるため、きめ細かくフレキシブルに対応している。例えば、滞在制作し発表したい、プロジェクト活動に利用したい、研究の為に滞在したい、またはアートシーンを体験したい等々、アーティストによって滞在する理由は様々である。そのために必要な活動や制作がスムーズに進むよう、日常生活と交流の場づくりをサポートしている。このプログラムには、創作スタジオと滞在住居の貸与があり、生活施設、備品、LAN接続環境等が完備している。専門的・人的サポートも充実していて、アーティストや地域のネットワークが活用できる。ワークショップ、展覧会・講演等の機会を地元アーティスト・グループや関係機関と連携して作り出す受け皿としての準備があり、オープンスタジオやギャラリーの利用もできる。

展示ギャラリーでの発表

アーティストが、作品を発表したりアート活動を展開する「舞台」が展示ギャラリーである。アーティスト自ら展示準備、実施、記録作成、作品撤収及び展示後の補修などを実施する。作家自らがマネージメントを行うことにより、独自性のある展覧会が開催できると考えており、若い作家の展覧会提案には、マネージメント面でのサポートも行う。

交流の場「アーティスト・ラウンジ」

遊工房に滞在するアーティスト、来訪する美術関係者や地域の人々が気楽に交流できるアーティスト・ラウンジがギャラリーに隣接しており、交流スペースとして活用できる。ここでは、国内外のAIR関連資料閲覧、独自データベースの検索やインターネットが自由に活用できる。AIR体験の機会が増えるよう、アーティストの体験情報や募集情報などの持込も受け、広く活用されるよう検索データを充実させている。

地域や国際交流の諸活動

私たちの活動拠点である東京・杉並区西荻窪では、2002年に、地元のアーティストや関係の仲間が集い、NPO法人「西荻まちメディア」を設立した。近くの都立公園「善福寺公園」で、野外アート展「トロールの森」を展開したり、小学校の「土曜日教室」で「子供地域アート探索隊（アートキッズ）」を始めたり、地域に根付いたアート活動となっている。また、国内のAIR運営担当者でネットワークする「J-AIRネットワーク」にも参画し、国内外のアーティストの広範にわたる活動支援や、AIRの運営向上をめざして研鑽に励んでいる。「Res Artis」は、AIRの国際ネットワークで、2002年から加盟し、海外の活動機関との連携・協調など試行を重ねている。

アジア・オセアニア地域でも2002年に始まった域内ネットワーク「Intra Asia Network」に参画し、アーティストとの交流発展を模索しているところである。

Youkobo Art Space

村田 達彦［むらたたつひこ］
遊工房アートスペース共同代表 Res Artis 理事

参考文献・サイト一覧

林容子「進化するアートマネージメント」レイライン
J-AIRネットワーク会議運営委員会「2005日蘭アーティスト・イン・レジデンス担当者交流事業報告書」
「遊工房アートスペース」www.youkobo.co.jp
「Res Artis」www.resartis.org/
「Trans Artists」www.transartists.nl/
「Intra Asia Network」http://asia.groups.yahoo.com/group/intra_asia_network/
「西荻まちメディア」www.npo-machimedia.org

Event Information

Art Biotop 那須
0287(78)7833
0287(78)2013(予約専用)

2008クリスマスコンサート	12月24日(水) 二期倶楽部　観季館　開場 15:30/開演 16:00　ディナー 18:30 会費:　コンサートのみ　7,000円／コンサート&ディナー　24,000円 出演:　岩崎　淑(ピアノ)、大石　啓(ピアノ)、漆原　啓子(ヴァイオリン)、北本　秀樹(チェロ)
陶芸ワークショップ「小池　頌子」	3月下旬開催(予定)　アート・ビオトープ那須陶芸工房　講師:小池　頌子

NIKI GALLERY 册 SATSU
03-3221-4220
11:00〜19:00　月曜休廊

12月2日(火)−25日(木)
「甘いものがたり」展
「レストラン・リテラチュール」展の第2弾。今回は小説、エッセイの中に登場する「甘いもの」をご紹介します。カフェでは展覧会にちなんだお菓子とクリスマスブレンドのハーブティーセットをご用意し、お待ちしております。入場無料

12月13日(土)17:00〜19:00
第12回 夜のサロン「ゲスト:平川典俊(アーティスト)」
「ニューヨークから、日本を見る。現代美術家の目」
参加費:2000円　要予約

12月23日(火・祝)17:00〜19:00
第13回 夜のサロン「ゲスト:吉田加南子(詩人)」
「詩を歩く。詩人の声、詩人の眼差し—フランスの詩、日本の詩」
参加費:2500円(ドリンク、お菓子付き)要予約

2009年1月10日(土)〜28日(水)
「室礼」展
室礼三千の山本三千子さん監修のもと、正月と節分の室礼を紹介。

2009年2月3日(火)〜27日(金)
「足立涼子・高見澤英子」二人展
繊細なブックアートとグラスアートが真冬に出会います。

2009年3月3日(火)〜8日(日)
「東京国際ガラス学院卒業制作展」
恒例、東京国際ガラス学院による　卒業制作展

2009年3月24日(火)〜4月19日(日)
「福田尚代・新見隆」二人展
文系美術作家の回文と、庭のスケッチ第2弾(予定)。

SATSU CAFE 册
045-414-2440

クリスマスギフト
クリスマス限定ティー、みつろうろうそく、洋書絵本、ドイツの木の玩具、オーナメントなど册カフェならではの心温まるギフトをご用意致しました。

ECO MARKET　＊心とからだ　環境に優しいもの＊
有機野菜・焼菓子・フェアトレード商品など册カフェセレクトのアイテムが並びます。月1回開催。

発行：NPO法人アート・ビオトープ／発行人：北山ひとみ／編集：富田勝彦／協力：荒岡哲也、安藤麻衣子、石渡美優、植田裕子、木本禎一、村井孝行／執筆：新見隆、服部勝人、原田祐輔、村田達彦、八代田素樹／印刷・エデュプレス
＊本紙記事の無断掲載を固く禁じます。